公共施設の将来更新費用の予測

(1)建物

・将来にわたり現状の施設規模・内容を維持することを前提として、今後60年間の大規模改修や建替え(更新)にかかる費用を一定の条件のもとに推計した結果、その総額は約3,310億円となりました。

・60年間の平均では1年あたり約55.2億円となりました。これは、近年における市の一般会計予算の約1割に相当するとともに、投資的経費の約6割に相当します。

(2)社会基盤(インフラ施設)

①道路

・市道の今後40年間の更新費用を試算した結果、総額は約1,095億円となり、40年間の平均では、年間約27.4億円となります。

・これを過去8年間の市道に係る整備費の平均約13.3億円と比べると、現状に対して約2.1倍の予算が必要となります。

・農道については、総額約131億円、年間約3.3億円、林道については、総額約298億円、年間約7.5億円となります。

・これら道路(市道・農道・林道)の総額については、約1,524億円となり、40年間の平均では、年間約38.1億円となります。

②橋りょう

・本市が管理する橋りょうの耐用年数を60年と仮定して今後60年間の更新(架替え)費用を試算した結果、総額は約364億円となり、60年間の平均では、年間約6.1億円となります。

・これを過去8年間の橋りょうに係る整備費の平均約2.9億円と比べると、現状に対して約2.1倍の予算が必要となります。

③上水道

・本市が管理する上水道の耐用年数を40年と仮定して今後40年間の更新費用を試算した結果、総額は約1,132億円となり、40年間の平均では年間約28.3億円となります。

・これを過去8年間の上水道に係る整備費の平均約3.8億円と比べると、現状に対して約7.4倍の予算が必要となります。

④下水道

・本市が管理する下水道の耐用年数を50年と仮定して今後50年間の更新費用を試算した結果、総額は約518億円となり、50年間の平均では年間約10.4億円となります。

・これを過去8年間の下水道に係る整備費の平均約4.1億円と比べると、現状に対して約2.5倍の予算が必要となります。

◇◇◇